



就在近期石川縣政府對外宣布，在珠洲市的一座廢棄操場，發現了一具長約 11.5 公尺寬約 3.5 公尺的奇異生物骨骼化石。現場已經封鎖，並已有相關考古團隊進駐，主導考古調查與開挖。考古坑挖掘面積長約 13 公尺、寬 6.5 公尺、深約 1.5 公尺。該生物骨骼化石相當完整，狀似鯨魚骸骨，但該骸骨有著兩隻前鰭與兩隻巨大的後足。



(示意圖：應放置日本遺址的照片)

根據最近古生物學家在祕魯發現一具保存完好的「陸行鯨」 *Ambulocetus natans* 化石，有下顎、牙齒，四條腿和蹼狀腳趾的特徵，和半水生哺乳動物的尾部脊椎骨，牠被考古學家認為是鯨魚的祖先。在珠洲市發現的這個生物骨骼化石是否是類似陸行鯨的生物？或者是陸行鯨演化到鯨魚更直接的證據？



位在石川縣能登町的真鷺市，早在 1981 年便發現標記著繩文時代（距今約 6000-2000 年前）的「真鷺遺址」。其中有著大量的海豚遺骨及鯨魚遺骨，證實了自兩千年前，人們便有捕食鯨魚的文化。在江戶時代平均一年也有捕獲幾十頭鯨魚的紀錄。自古以來若是有個村莊捕獲鯨魚，鯨魚肉一半給捕獲的村，其他一半分給周邊六個村莊。所以每當有鯨魚出現，七個村莊都因此得利。

イルカ漁のムラ



前期末葉から中期初頭にかけての地層からはおびただしい量のイルカの骨が発見されました。第一頸椎をもとにカウントすると、個体数にして286頭にもなります。イルカ層自体は調査した範囲よりも広がりを持っているので、実際には何千頭ものイルカの骨が地中に眠っている可能性があります。

出土した骨は、カマイルカが56%、マイルカ35%でこの2種類のものが圧倒的に多く、他にバンドウイルカやゴンドウクジラ類でした。イルカ層は、獲ったイルカを解体し、廃棄する捨て場だったようです。

イルカは通常一箇所にとどまって生活してるのではなく、海水温の上下や海流などの動きに合わせて季節的に南北の移動をしています。真鯨遡跡の固する富山湾では対馬海流の分岐流が流れ込んでいますが、そこに集まる魚やイルカを追って真鯨の辺りにもイルカの群れがやってきたと考えられています。



真鯨の縄文人はどのようにしてイルカ漁を行っていたのでしょうか。真鯨では縄文時代だけではなく明治・大正ごろまでこの地域ではイルカ漁が行われてきました。その例を見ると、湾の中に網をはり、船でイルカを追い込んでいたようです。しかし、最も出土量が多いカマイルカは網に追い込むだけでは捕まえられるという点、真鯨遡跡からは周辺の遡跡以上に石槍が出土しているので、追い込んだイルカを槍で突きとっていたのではないかと考えられています。

出土したイルカの量は一つの集落ではとても消費できる量ではありません。そこで、周辺の村々と共同で漁を行い、解体して分配していたと考えられています。事実、出土したイルカ骨の中にはそのように分配したときについたと思われる解体痕が見られるものがありました。

イルカ層からはイルカ骨以外にたくさんの土器や石器、木製品が出土しています。中でも目を見張るのはトーマボールのような彫刻を施した木柱です。この彫刻柱は倒れた状態で出土しましたが、もともとは直立していたと思われます。

彫刻柱はクリ材の丸太で、イルカ骨の中に埋もれて見つかりました。柱の上部に溝をめぐらせ、3段の隆体を刻み、真ん中の幅広い隆体には楕円形の彫刻とそれを挟むような三日月形の彫刻を2条ずつ施しています。下段の隆体には山形文のような握りこみがあります。

この木柱が何のために作られたかはわかりませんが、イルカ漁と関係するマツリのシンボルだったとも言われています。北海道のアイヌの人々は、狩りで獲ったクマの霊を神様に返す「熊送り」という儀式を行っています。真鯨の彫刻中もそのような「イルカ送り」の儀式に使われていたのかもしれない。

另珠州市當地的慰靈碑上記載著三次鯨魚的擱淺，分別發生在明治及昭和時代。「明治 11 年月日不詳，鰐崎海岸，白長鬚鯨，體長 35 米。昭和 36 年 2 月 11 日，赤神海岸，白長鬚鯨，體長 10 米。昭和 62 年 1 月 9 日，白山海岸，鰺鯨。」這個碑文正是感念鯨魚擱淺犧牲，造福當地住民的生活，感恩祈福冥界獸靈所立下。而這個考古遺跡的出土，也顯示著當地和鯨魚的密切關係，有了另一個歷史證據。



這個考古遺跡的出土，是鯨魚骨骸化石？是陸行鯨化石？是陸行鯨演化成鯨魚的證據？還是與當地的傳說有關？就有待考古學家研究之後，來為我們解答謎底。

伝説の鯨街道

(三波街道)

特集・能登町広報探訪～鯨伝説～
参考文献「能登町史第2巻-漁業編-」

鯨鯨伝説

【けいらく・しゅん・だん】

鯨の町を内海にアピールするイベント「鯨鯨伝説」。今年は「バスツアー」を企画しました。

能登町では、現在でも年間10頭前後の鯨が漁獲されています。定置網で設置されているクジラは主にミナトクジラであり、クジラの中でも一番大きいクジラといわれています。町では、縄文時代から続く「クジラを食べ」という文化をまなづくりに活かしていることや平成15年頃から「見る」「ふれる」「味わう」「感じる」をテーマに「鯨鯨伝説」と銘打ったイベントを開催してきました。

「鯨鯨伝説」は、クジラ料理を例年での食談覧をはじめ、海のグリーンツーリズムとして、魚市場見学、磯釣り体験など多様な内容で実施してきました。

今年度は、さらなる認知度アップを図るために金沢市を主な対象として「1のおおまきバスツアー【鯨鯨伝説コース】」を企画し、1月末の新聞紙上で広告、募集を行いました。

【日時】2月24日(土)～25日(日) 1泊2日
【会場】民泊のな・ふわ・田/浦江
【参加人数】70人
【費用】1人12,000円
【水産講座】72,500円

鯨鯨伝説～食料としての鯨～

クジラはほぼ乳類なので肉の味は魚よりも和牛に近いですが、高タンパク、低脂肪、低カロリーでありながら脂肪分が少なく、さらにEPA（エイコサペンタエン酸）の含有量が魚類に多く、血液循環系統に良いとされています。刺身、すき焼き、煎の物、特にグルメ内の「尻尾の身」などクジラ料理は非常に多岐です。クジラは余すところなく一頭まるまる楽しめる優れた食材なのです。

庄次兵衛鯨(矢波)

正午間(一六四四年) 椿平落しに直前の庄次兵衛と一羽が、沖へ出る鯨船になり、矢波の森の木の下に船に乗り込み、矢波の森の森に落ちた。

その年の春は雨のどくどくと、捕れた魚を海に目をし、酒造りがあつた。庄次兵衛は、一羽の鯨を食べて、とてもおいしいので、酒を造るようになった。

庄次兵衛は、雨のどくどくと、捕れた魚を海に目をし、酒造りがあつた。庄次兵衛は、一羽の鯨を食べて、とてもおいしいので、酒を造るようになった。

庄次兵衛は、雨のどくどくと、捕れた魚を海に目をし、酒造りがあつた。庄次兵衛は、一羽の鯨を食べて、とてもおいしいので、酒を造るようになった。

庄次兵衛は、雨のどくどくと、捕れた魚を海に目をし、酒造りがあつた。庄次兵衛は、一羽の鯨を食べて、とてもおいしいので、酒を造るようになった。

矢波で捕れた鯨(昭和20年代)

漁師の森の森は、平成17年度に水産庁が調査した「漁業に付いた漁獲物の水産資源調査」にてドクダミ科に「能登の鯨鯨伝説」として認定された

ひげ髭の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕鯨は、その条件の下に認められています。

・捕鯨、捕鯨の捕

鯨伝説

クジラとあれば七浜光る



宇出津、天保島に引き揚げられたクジラ（昭和初期）

かいぞういん
海蔵院の鯨伝説
(藤波)

[illegible]

江戸時代後期に描かれた「鯉捕り絵図」は町の文化財に指定されており、現在は遠島山公園内の歴史民俗資料館に展示されています。

鯨くじら島の由来じま（波並）

延喜年間（一〇六七年）
 鯨島の由来（波並）
 鯨島は、波並の頭にシンドシガ、本掛けであ



見ると鰯の頭にフンドシが一本掛けてあ
がはずして掛けたい」と言い争ったが
である肉は浜新如のもの、あとは在所の
出ていた者全部で分けた。

その肉は近郷近在十里四面に広がっ
三十三尋(約59㍎) あったということで
それから波並村はすれの島集落を鰯島
今でも伝えられている。

クジラとの歴史は縄文時代から

[illegible]

火の不始末で家を燃やしてしまった
おばあさんは後悔して、死んだら鯨
にでもなってお詫びしたいと言っ
ていた。

おばあさんが死んだ数年後に、村が大金を返せと訴えられた。
翌年、大きな鯨を浜に引き込み、それを売って金を返すことができた。
この鯨はおばあさんだったのだろうと言われた。

(日本常民文化紀要：広岡 万治
『馬縹の里』馬縹町観光協会
1984)

圖說：關於能登和珠洲市的鯨魚傳說。